

大山遭難(2020年12月)

50歳代男性、単独。急に悪天候になりホワイトアウト。来たトレースも分からず道迷いに。地図アプリで現在位置を確認するも単独では戻れないと判断し、救助要請。翌日救助隊に発見され無事下山した。



解説

捜索初日は悪天候のためヘリが飛ばず、捜索隊は6合目辺りを捜索。ちょうどこの頃YAMAPの位置情報が共有され、登山道から外れた場所にいることが確認できたが、初日は発見できず。二重遭難の危険からこの日の捜索は打ち切り、警察から動かずにピバークをするよう遭難者に指示。

翌日、朝4時から捜索登山開始。6合目の避難小屋に到着し、ここから経験豊富な隊員を中心に8名を選抜して、視界不良と深い新雪の中、それぞれ隣の隊員を確認できるくらいの間隔を空け、ラッセルして下る。途中で遭難者を無事発見。

手袋を失くし、左手は重度の凍傷といえる状態。手袋で覆ったり。身体にもできるだけ刺激を与えないようダウンジャケットを掛け、衣服の内側にも熱湯入りのプラティパスを入れたり。行動食として持っていたアンパンのあんこを、熱湯で溶かし、お汁粉の状態にしてカロリーを摂らせたりと、様々な措置を行い無事下山できた。

今回の事例は、遭難者の位置が地図アプリで確定できたことが決め手。YAMAPの「みまもり機能」、ヤマレコの「いまココ」機能をしっかり使い、いざという時の備えをして安全登山を心がけてほしい。